

輸出用米「ほしじるし」および「ハイブリッドとうごう3号」の極多収栽培法

農業総合センター農業研究所

【研究の概要】

本県における輸出用米の取り組みは、H28の約60トン（約10ha）からR2の約3,200トン（約600ha）に増加し、今後も拡大が見込まれます。そこで、輸出用米として本県で主に栽培される「ほしじるし」及び「ハイブリッドとうごう3号」（以下「とうごう3号」という。）について、輸出用米生産者の所得向上のために、極多収（目標値：720kg/10a）が得られる栽培法を明らかにしました。

【研究内容】

(1) 極多収栽培技術の確立・実証

収量を増加させるため、「ほしじるし」及び「とうごう3号」に適した施肥法（施肥窒素量、追肥時期）を検討しました。

(2) 経済性評価

「ほしじるし」及び「とうごう3号」の極多収栽培法によって得られる所得を試算し、その経済性を「コシヒカリ」と比較して評価しました。



図1. 収穫目前の「ほしじるし」

【研究成果】

(1) 極多収栽培技術の確立・実証

① 基肥+追肥体系で栽培する場合

- ・施肥窒素量（10aあたり）は、「ほしじるし」では基肥8kg・追肥4~6kg、「とうごう3号」では基肥8kg・追肥6kgあるいは基肥10kg・追肥4kgで720kg/10a以上の極多収が得られました（図2）。
- ・追肥時期については、両品種とも出穂前20日が最も収量が多くなりました（図3）。

② 全量基肥施肥で栽培する場合

- ・コシヒカリ慣行栽培に対して、「ほしじるし」では約4kg/10a、「とうごう3号」では約5kg/10aの窒素増肥により、収量は目標（720kg/10a）の90~116%が得られました。

(2) 経済性評価

- ・所得については、両品種とも「コシヒカリ」を上回りました（表1）。

表1 極多収条件における経済性

品種	収量※ (kg/10a)	収入 (円/10a)	費用 (円/10a)	所得 (円/10a)
ほしじるし	689	114,360	72,418	41,942
とうごう3号	796	128,091	83,120	44,970
コシヒカリ	480	108,000	70,748	37,252

※) 調査区の収量調査結果（ほしじるし：725kg/10a、とうごう3号：837kg/10a）に0.95を掛け、収穫時の損失分を考慮したときの収量値。ただし、コシヒカリは県の平均収量値。

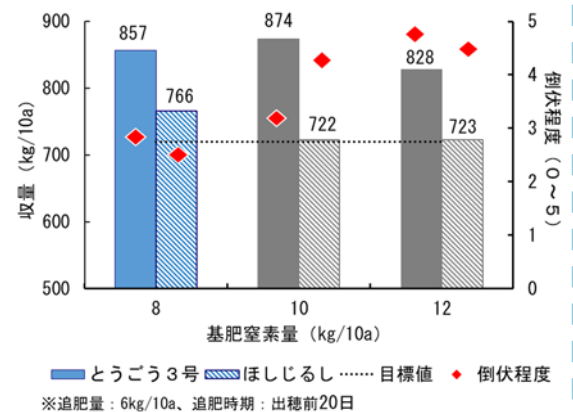


図2. 基肥窒素量と収量および倒伏程度の関係

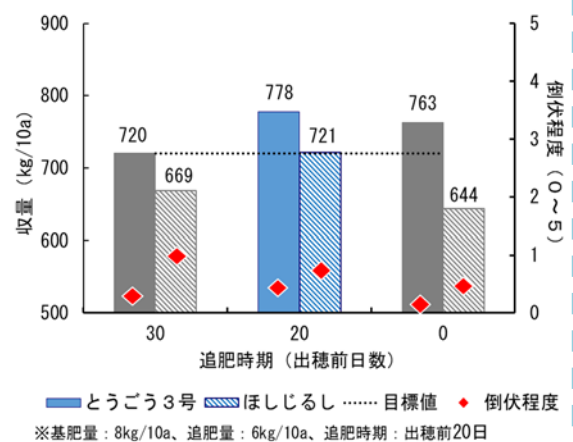


図3. 追肥時期と収量の関係

【将来の展望】

両品種とも、倒伏の危険性を抑えて、目標値（720kg/10a）を上回る極多収が得られ、10a 当り所得は「コシヒカリ」を上回ります。本成果は、輸出用米生産者の経営安定化に寄与することが期待できます。